

ニュースレター 「がんばる農林漁業者」 第4号

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部
平成27年7月30日発行

このニュースレターは、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の「生産再生運動」一環として発行しています。福島県の農林水産業の復興・再生に向けて先進的な取組をされている方々を紹介していきます。



「おいしさ」を求めた グリーンアスパラガス栽培

おおたけまさひこ りつこ
大竹正彦さん、律子さん

(喜多方市)

☆アスパラガス、水稲

笑顔が素敵な大竹さんご夫妻

大竹正彦さんは、平成13年にそれまで働いていた東京から実家へ戻り、後継者として就農。平成20年には律子さんと結婚。翌年には律子さんも仕事を退職し就農。夫妻が中心となってアスパラガスの栽培を行っています。

正彦さんは就農後、地域の若い農業者らが経営改善等を目的として構成する農業青年クラブ「サークルつばさ」に入会。現在は、正彦さんが副会長、律子さんが事務局長を務め、クラブの中心となり、地域づくり活動などに取り組んでいます。

正彦さんが就農したのをきっかけに、平成15年にはハウス8棟を建設し、露地栽培だけではなく施設栽培にも取り組んでいます。さらに、3年前には補助事業や制度資金等を活用してハウス4棟を新たに増設し、現在は20棟まで規模拡大しました。

今後の目標は、肥培管理等を改善し、年間を通して

アスパラガスが安定して収穫できるようにし、品質面では付加価値を付けて販売していきたいとのこと。また、冬期間の仕事として、加工（6次化）や苗作りを経営へ取り入れたいと考えているそうです。

「原発事故後は、もう、アスパラガスを作ることができないのではと悩んだこともありましたが、東京の商談会へ出展して、おいしいものなら皆さん食べてくれる、おいしいものを作れば評価してもらえることを再認識しました。消費者には、より新鮮なものをおいしく食べていただき、『おいしさ』で評価してもらいたい。」とご夫妻はおっしゃいました。

今後は、若い担い手に「サークルつばさ」の仲間になってもらい、一緒に地域づくり活動に取り組んでいきたいそうです。

取材日：平成27年6月4日（木）
取材者：会津農林事務所 大竹、高橋



幅広く農業に

チャレンジしたい

かわはら 修一 さん

(川内村)

★花き、水稲、野菜



奥様の茂美さんと

咲き誇るリンドウに感動する河原さん

河原修一さんは、震災前は山関係の仕事をしていましたが、震災により一時避難し、帰村後は農林業を行いたいと考え、平成26年から、双葉農業普及所及び農業総合センターの指導を受け、リンドウ栽培を始めました。実証段階であり、5aくらいの少面積での栽培ですが、2年目は、芽も大きく育ち、紫の花が見事に咲きました。「花が咲いたときの感動は忘れられません。すごくうれしかった。」と河原さん。リンドウの栽培面積を少しずつ増やし、将来的には1haくらいの規模に拡大していきたいとのこと。

平成27年4月に、農業を中心に行う(株)緑里^{みどり}を立ち上げ、農業法人化の準備を進めています。

現在、(株)緑里^{みどり}では、避難している方等から任せられた田んぼの管理を任も含め、25haの米の作付を行っています。また、50aの畑では、トマトのほか、エゴマ(じゅうねん)を栽培予定です。特にエゴマは

「川内村と言えばエゴマの油、エゴマが食べられる」と言われる様に、ブランド化したいとのこと。

「農業者としては、まだ初心者マークですが、様々なことにチャレンジしたいので、たくさんの方からのアドバイスや意見を聞きながら農業を進めていきたいです。また、風評というのは何年たってもついてくると思うので、地道に活動し、少しずつ販路を拡大していければと思っています。」と語ってくれました。

最後に、河原さんは「今後は、『緑の里^{ひやくしょうや}の百笑屋』の店名で、川内村内だけでなく、村外にも直売所を出したいと考えています。リンドウのほか、川内村の米や野菜、餅などの加工品も販売したいとも考えています。」とのことですので、機会がありましたら、是非ご賞味ください。

取材日：平成27年6月24日(水)
取材者：相双農林事務所 長谷川



取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

がんばる農林漁業者は、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」のホームページでも紹介しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fff-syoku-furusato/>

食とふるさと

検索

